

コスモス 4月号

第67巻 第4号

◆宮柁二カレンダー（1）四月の歌

望みこし生活は常にとほくして逝く春の庭こ
の日しづけし
歌集『晩夏』

昭和二十五年五月発表。『定本宮柁二短歌集成』
では「生活」に「たつき」のルビがある。当時の住
居（横浜市保土ヶ谷区川島町）の草木を詠む先行数
首に続く歌。晩春の庭のたたずまいに心を注ぎつつ、
おのずと湧いた感慨でもあろう。おおらかに詠み起
こし、静かに納めるさまに、広く深い受容の精神が
滲み出ている。「し」の響きが統一感をもたらずか
たわら、確かな覚悟をも暗示しているようだ。

この年作者は三十八歳。前年に「孤独派宣言」を
執筆し、立場を明らかにしている。（水島晴子）